

九州北部豪雨等における被害状況の分析結果

【土砂や流木の流出】

- ・ 谷底平野を流れる急流河川において、局地的かつ猛烈な降雨により、洪水が大量の土砂や流木とともに氾濫したことから、家屋の倒壊・流出や人命被害が拡大
※過去に土砂崩壊等が発生していたことは確認

【情報把握が困難】

- ・ 中小河川では水位計の設置が進んでおらず、洪水時の河川の現況把握が困難。

【度重なる浸水被害】

- ・ 気候変動等に伴い降雨が局地化・激甚化している状況下において、改良復旧事業が完了していた花月川では氾濫被害が減少したが、多くの中小河川は治水安全度が低く、一部で過大な流量による越水等により甚大な浸水被害が発生。



中小河川の治水対策に資する知見(案)

【土砂や流木の流出】

- ・ 土砂災害が発生する危険性の高い流域において、流出した土砂・流木が流下する可能性が高い中小河川（谷底平野を流れる中小河川等）を対象に、対策を強化すべきではないか。
※過去の上流域での土砂崩壊等も考慮

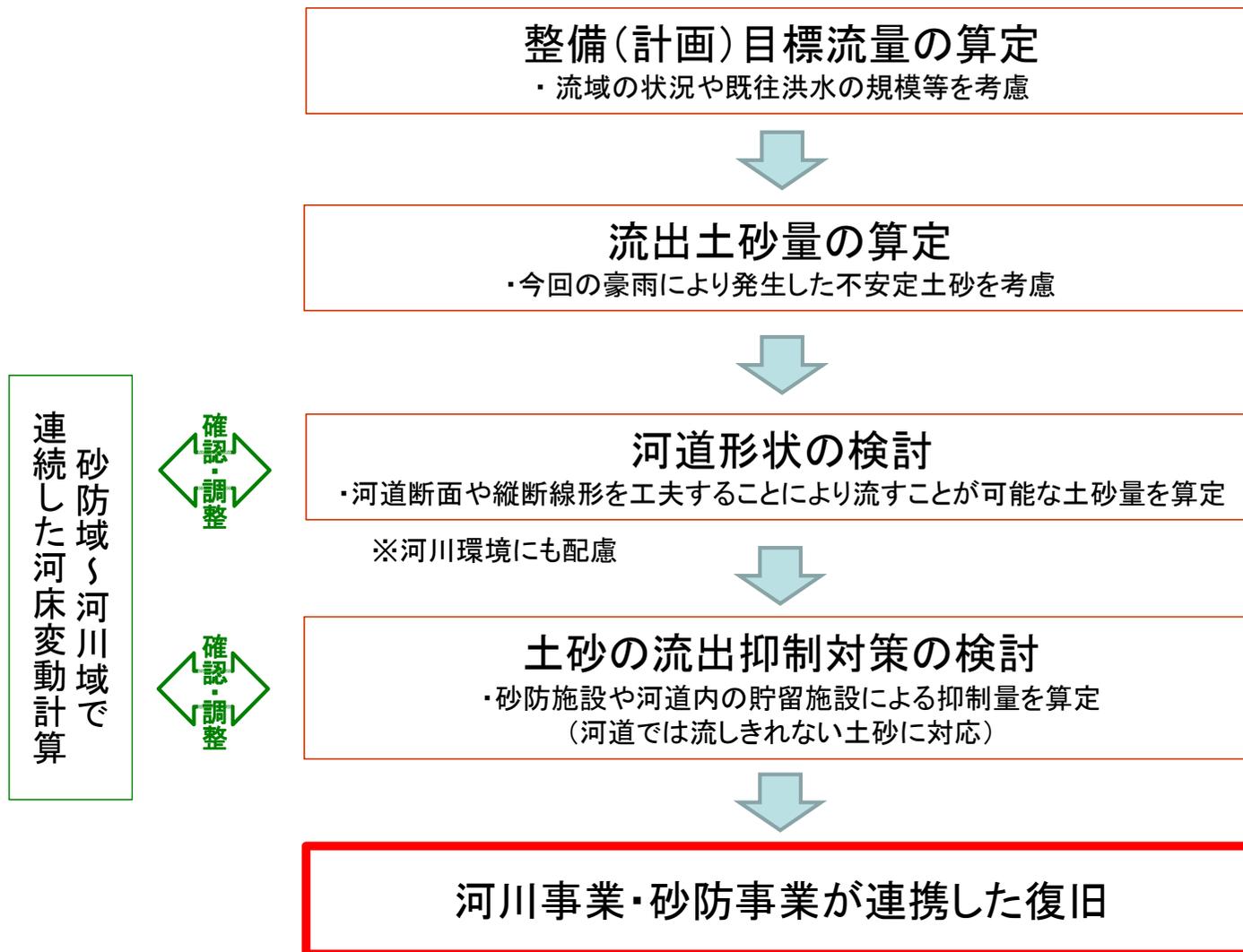
【情報把握が困難】

- ・ 水位計の設置が進んでいない中小河川を対象に、水害による危険が高い箇所等に水位計の設置等を行い、住民の避難等に活用すべきではないか。

【度重なる浸水被害】

- ・ 今後も局地的な集中豪雨が頻発することが懸念される中で、繰り返し被災を受けている中小河川を対象に、再度災害防止対策を加速化すべきではないか。

- 九州北部豪雨で発生した不安定土砂の存在を前提に、河道対策と流出抑制対策を効果的に組み合わせた対策を実施。
- 時間の経過とともに変化する流出土砂量に応じて施設整備や管理方法の見直しを実施。



※時間の経過とともに流出土砂量が減少することが想定されるため、状況変化に対応可能な構造の施設を検討、管理方法の見直しを実施